

令和5年度「長久手市役所の仕事」通知表の作成（外部評価）①

令和5年9月20日 開催概要

開催概要	
会議等の名称	令和5年度行政評価・外部評価① 「中央図書館事業」【中央図書館】
開催日時	令和5年9月20日（水） 午後2時から午後3時まで
開催場所	市役所西庁舎2階 第7・8会議室
出席者氏名 （敬称略）	<外部評価実施者（行政改革推進委員）> 石橋健一、室淳子、岡崎信久、細萱健一、安立憲市 <担当課> 教育部長 浦川正 館長 二之部香奈子 係長 水野香織 <事務局> 総務部長 加藤英之、総務部次長 福岡隆也、 行政課長 若杉雅弥、課長補佐 水草純、庶務係長 佐藤雄亮
傍聴者人数	2人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備考	

外部評価実施者の 質疑、意見等	<p>（委員）</p> <p>市長公約として、新市長は中央図書館の分館を掲げていたが、知っているか。</p> <p>⇒知っている。</p> <p>（委員）</p> <p>最終的な目的は、図書館が市民の交流の場となるとあり、図書館に多くの人に来てほしいととることができるが、成果指標を来場者数ではなく貸出点数としたのはなぜか。</p> <p>⇒本市の図書館の特徴として、滞在型図書館としての魅力がある。入館して楽しむ「入館者数」も大切だが、貸出点数は図書資料がどのように活用されているか分析しやすい指標であるため、指標として選定した。</p>
--------------------	--

(委員)

成果指標にある貸出点数には、本以外の貸出しも含まれているのか。来場者数は含まれていないのか。

⇒本、DVD、CD、紙芝居、雑誌等の点数である。来場者数は含まれていない。

(委員)

14ページの魚の骨図から、担当課としては、図書館が市民交流の場となった結果として、貸出点数が増加するという理論で考えているのではないかと思われる。

図書館は、利用する人は頻繁に利用するが、利用しない人はほとんど利用しないという見方もある。成果指標は人口1人あたり貸出点数の方が良いのではないか。

(委員)

令和6年度から1度に借りられる本の数を1人10冊まで引き上げるとあるが、同じ人が多く借りられるようにするのではなく、利用者自体を増やす必要があると考える。

また、もし成果指標を貸出点数のままとするなら、上限が10冊に増えることを勘案し、目標値を増やすべきである。1%人口増に合わせて目標値を増やすだけでは足りない。

(委員)

図書館利用者自体を増やすことについて、リピーターは何もしなくても来館するが、図書館や読書に興味のない人にいかに来館してもらうか。魚の骨図を活用して検討しては。

(委員)

中高生などの利用を増やすことは、紙媒体の図書だけでなくデジタル媒体の図書を導入したり、アプリ導入、施設のWi-Fi環境整備など、今の仕組みを変えていかなければ難しい。デジタル媒体なら図書館に来なくてもいい。最終アウトカムには図書館に来て交流とあるが、場所を選ばない読書の推進という選択もあるのではな

いか。

(委員)

本を読めない学生が増えている。行間から想像したり、前後関係を整理することができず、長文が読めない。調べ学習の支援として、読書によるインプット及びアウトプットの手法を、小さい頃から司書の職員に支援してもらえると良い。

(委員)

図書館には未就学児や小学生向けの図書は充実しているし、小学校や保育園に貸出す取組もあり、小さい子どもの読書機会は多いが、中高生向けの図書は少ない。

(委員)

学校や児童館への本の貸出しについて、本の選書は誰がどのような基準で行っているのか。

⇒学校の学級文庫には、学校図書館に置いていないもので、クイズ形式であったり、物語もなるべく読みやすい内容のものを貸出している。選書は、学校連携司書が行っている。

児童館には、中央図書館の司書が児童館職員の相談を受け、児童館ごとのニーズに対応して選書や本の配置換えの協力をしている。

(委員)

成果指標を貸出点数としているが、図書館が市民の交流の場になることを目標とするなら、本の種類であったり、他の指標も検討した方がいいと思う。

(委員)

成果指標の問題については、魚の骨図の頭の部分が「貸出点数の増加」で本当にいいのか、ということに集約される。特定の人だけが借りた数ではおかしい。新しいユーザーをどのように獲得するのかを検討してほしい。

(委員)

貸出対象は市民のみか。市外住民も借りられるならば、市民と市外住民の貸出割合はどのようなか。

⇒市在住・在学・在勤者の他、広域地区貸出対象として、隣接市の住民が借りられる。

市在住・在学・在勤者は 333,308 点、広域地区は 146,344 点である。約 3 割が広域地区の利用者である。

(委員)

図書館ボランティアは無償か。また、どのような内容か。

⇒無償である。なお、スマイルポイント制度の対象である。100 人程度の登録があり、内容は、絵本読み聞かせ、本の修理、書架の整理である。

(委員)

ボランティアの人数は今後も増やしていくのか

⇒増やしていく。

(委員)

貸出冊数を倍に増やすと、在庫不足にならないか。

⇒蔵書は 24 万冊あり、開架書架に出しているのはその内 9 万冊程度であり、例年 7 千冊程度購入しているため、不足することはないと考える。

(委員)

書架のスペースは足りているのか。

⇒図書館のキャパシティとして今が限界である。アウトリーチを進め、共生ステーション等他施設に設置する本を増やしていきたい。

(委員)

デジタル媒体の図書に移行していけば、スペースを空けることが

	<p>できる。また、敷地内駐車場についても広いとは言えず、敷地外駐車場は遠いことも問題である。</p> <p>最終的な目的は交流の場となる、とあるが、図書館は大前提として静かに過ごす場所であり、その図書館において交流を推進するのは無理があるのではないか。</p> <p>⇒図書館には閲覧室とは別にお話会などのイベントで利用する会場もある。</p> <p>(委員)</p> <p>新聞や雑誌を読むために日常的に来館する市民もいる。イベント時だけでなく、喫茶店のように普段の交流の場の延長として使うことはできないか。一つの提案として申し上げる。</p>
--	--

<p>講評・まとめ</p>	<p>担当課が作成した資料では、現在図書館を利用している人にフォーカスして課題分析等をしているように見受けられる。市全体の人々が対象の事業であるため、成果指標について、人口を分母にする等改善されたい。</p> <p>図書館のあり方について、図書館の増床、他の施設へのアウトリーチ等長期的かつ広い視野で検討してほしい。</p>
---------------	--